

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
<b>1. 理念の共有</b>						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開放的な生活環境を作り、地域と当たり前に関わり生き生きと暮らせる為の支援をしている。	○	地域の人との交流をより多くする。
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	天気がよければ外出、近くに散歩だけでもいい。気分転換を出来るよう全スタッフがこころがけている。	○	老人会等へ参加をし、地域の人々と接する時間をつくる。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には行事等の報告を折りにふれしている。家族との連絡はイベントへのご招待など必要に応じてしている。	○	活動報告等を知らせる。
<b>2. 地域との支えあい</b>						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等での挨拶、自治会の清掃行事(ゴミゼロ作戦)に参加。ふれあい市場で買い物し地域の方々と交流する。	○	気軽に立ち寄っていただけるようこちらからお願いしていく。
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の清掃行事に参加。文化祭等への見学。保育園児との交流。	○	老人会等へ参加出来るようにしたい。定期的な保育園児たちの訪問をお願いしていく。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	こちらから、地域の役に立つようなことは何か。という発信が具体的にされてないが、電話や来訪していらっしゃる方の認知症や介護の相談を伺いアドバイスをさせていただいている。	○	恵まれた敷地を利用し、夏祭り等の会場として提供させていただく。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的な評価をいただくことで、具体的に不足している点、問題点を認識し改善に取り組むことで、より良いケアが出来ることを理解している。	○	外部評価により、見直すべき所を直し、改善していく努力をする。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かす為の運営推進会議であると理解している。	○	話し合いの内容に即時対応出来るよう心がける。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、今後も大切に情報収集をしていく。	○	ボランティアセンターなどを通じて、利用者も参加でき楽しめるようなグループを探しお招きしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会はあるが、必要となるよう支援する方がいっしょにいない。	○	必要な方にはそれらの制度の活用が出来るよう支援していく。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の間で、徹底されている。 関連記事を掲示して折にふれ喚起している。	○	家族にも注意喚起をしていきたい。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をし、理解を図っている。	○	いつでも、全スタッフが利用者や家族等の不安や疑問点を十分に説明できるようにする。
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪の際いつでも話しは伺えるようにしている。	○	アンケート形式で時々ご家族(全員)のご意見を伺ってみたい。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康に関する変化、その他変わった状況が生じた時は速やかに報告している。 本人の希望等を個々に連絡している。	○	利用者の健康診断やインフルエンザ等、その都度受診されるように家族に連絡している。 全員受診されるようにする。
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に機会を設けてはいないがご意見などは常時いただける雰囲気になっている。	○	家族の方々からいただいた貴重な意見を職員全員で受けとめ反映していく。
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い意見、提案を聞き改めるべき点は改めるようにしている。	○	職員間で何でも話せる職場とし、意見や提案の出やすい雰囲気をつくっている。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	誕生会等、イベント時にはスタッフの人数を増やす等臨機応変に対応出来るようにしている。	○	利用者の病院受診時の付き添い要望に柔軟に対応させていただく。
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	アットホームな雰囲気を心がけ、若年者には年長者が相談にのるなどし、仕事への不満や悩みを解消することで離職などを防ぐ努力している。 利用者へのダメージにも気を配り注意を払っている。	○	利用者一人ひとりを全ての職員が把握して馴染みになり、利用者に不安や不満を抱かないようにしていく。
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを推奨している。 研修等に積極的に参加させている。	○	経験の長い職員が、経験の浅い職員に仕事を親切に教えていく。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議を開催したり、個別に訪問し合える風通しのいい関係作りをしている。	○	情報交換して互いに互いの勤務の刺激となり活性化につなげる。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別に声かけ、あるいは会議の中で方向性を示し意欲を喚起している。	○	職員のどんな意見にも耳を傾け、職員にストレスのない職場を作ります。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力を励まし応援している。さらなる努力を触発する声かけもしている。	○	職員個々に持っている能力を最大限発揮できるように励まし応援していく。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と面接して、ご本人の希望や不安などをよく聴いて受けとめる努力をし、行動、表情を観察し訴えがなくてもこちらから声かけ、お話を伺う機会を持っている。	○	もっと個別に利用者様と顔を向き合わせてお話させていただく機会を持つ。
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接はもちろん、来館時にもご家族の声を聞かせていただく様努めている。	○	どのスタッフもご家族が来訪された時には日頃の様子を話してさしあげられるようにする
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態等を見極め、ショートステイやデイサービス、訪問介護、小規模多機能、リハビリなどのサービスもあることをご説明させていただきベストの方法を探る努力をしている。	○	相談を受けた時に速く見極めるのではなく、本人家族が今一番必要なサービスをじっくりと見極めていきたい。
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は一人っきりにしないよう、そばに寄り添う形でスタッフが見守り、一緒に他の利用者さんとも関わるようにしたり、肌理細やかな対応をしている。	○	今年度からデイサービスでの受け入れが出来るようになるので、デイサービスでご利用いただき徐々に馴染めるよう対応していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人、介護される人という概念は捨て、共に生活していく人という視点を崩さず家族として暮らす位の気持ちで支援させていただく。	○	利用者の出来る事をどんどんやっていただけるよう、さりげなくお願い(依頼)する声掛けを積極的にする。
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来ていただける様な雰囲気作りはもちろん、呼びかけもしている。	○	通信文、便りをお配りしたり、日帰り旅行、イベント等の案内もしていく。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が報告する機会を作り、気楽に来ていただけるよう工夫している。	○	時々はこちらからご家族のお宅に伺い、ご家族と過ごすひとときが持てるよう試みる。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
30		馴染みの人や場との関係 継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	“馴染みの人、場所との関係を大切に”という視点での支援がまだ未開発である。	○	個別に“馴染みの人、場所は何か”を探す所から始めていく。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のトラブル等がおきないように一人一人の性格を把握して、互いに話しかけたり笑いあったり出来るよう支援している。	○	話題を提供、あるいは引き出す役目をして、雰囲気作りを心がける。
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても本人がその後どのようなサービスを利用するのがよいか、レスパイトケアも考慮しアドバイスさせていただいている。	○	契約が終了しても、次のサービスに無理なく移行できるよう、ご本人のADLなどの情報だけではなく趣味や習慣その他関わらせていただいて感じたことなどもお知らせして早く馴染めるよう協力させていただきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接的に質問するだけでなく、世間話などからお気持ちを推察する等の努力をしている。	○	申送り帳ではなく関わった時気付いた事、感じたことをスタッフが“ちょっと書き”するノートを作り利用者の個性の把握をスタッフ同士で努めるようにする。
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を得たり、ご本人の話から少しずつ把握していつている。	○	常に“もっと知りたい”という意識に関わり、得た情報をチームで共有していく。
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	実際に自分の目で耳で感じた様子や日報などの記録も合わせ、現状把握に努めている。	○	個別に“今日は一日、この利用者さんに密着してみよう”ということでチームで取り組む。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月例ミーティングでの話し合いの中で掘り下げて課題とケアのあり方を見つけていつている。	○	折にふれ、ご家族にどういケアをお望みか、現在の状況を説明した上でお尋ねする。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の心身の変化に伴い、当然見直すべき所は見直しをし計画を作成している。	○	毎月のミーティングで利用者の日常の変化等を話し合い、介護計画の見直しの基としている。
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報の中で個別観察的な記録がされている。気づきメモをとっている。	○	毎日の日報で記録すれば終わりではなく、それがいかされないといけないスタッフ全員の精読を目指す。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内に別施設があるメリットを生かし、柔軟に支援をしている。	○	別の施設の方々との交流により利用者が一日を楽しく過ごせるような支援をしていく。

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	自己 評価	外部 評価				
タイトル			小項目			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	マジックショーや腹話術、大正琴などボランティアの協力を得ている。 文化会館での催しで座席を用意してもらっている。	○	小学校、中学校などに協力していただき音楽活動などを見学させていただけるようお願いしていきたい。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	その方にとって最適な方法を一緒に探り他のサービス利用に向けての話をしている。	○	他のサービスを受けるほうが好ましい場合、本人の意向や家族の意向を踏まえて支援させていただきたい。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交流を行っている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に代わって、あるいは一緒に医療機関に向き状況把握に努めている。	○	ご家族が本人とかかりつけ医に受診された時などは、状況を伺い常に本人の状況を把握しておくようにしたい。 医療機関との連携を密にしておく。
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族が専門医に受診同行されお話を聞いてもらえ、職員に伝えてくださる。	○	利用者に日常行動などスタッフが把握していることをお伝えして、よりよい治療、ケアをするため受診の際は出来るだけ付き添いの支援を行いたい。
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師、夜勤に入る看護師に相談し助言を得ることがある。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者から直接情報を得て出来る限りの速やかな対応をしている。	○	入院時、病院関係者には、出来る限りの情報を提供している。退院時にその後どのようなサービスをすればよいか情報を得て速やかに対応している。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方についてかかりつけの医師との話しはあったが、徹底とまではしていない。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけの医師と直接支援内容を相談したことはない。	○	ご家族がかかりつけの医師と話されているが、職員の方まで伝わって来ない時もあるので、受診に同行する機会を得たい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いは十分に行い、情報を提供している。	○	事務的な情報提供だけではなく、利用者の好きなもの落ち着く声かけの仕方など、関わらせていただいた間感じたこともお伝えしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>						
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには充分注意し、記録においても失礼のない書き方に気をつけている。	○	利用者の自尊心を傷つけない言葉のかけ方や記録の書き方を統一するように職員に徹底していく。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくりとした口調でご説明するようにしている。押し付け、強制的な言葉がけをしないようにしている。	○	今は、職員が希望を伺うと「あなた決めてよ。」と他人まかせの部分が多くこれを利用者さん自身で決めていただくようにしたい。
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「行きましょう。」ではなく「行ってみませんか。」と判断をしていただけるような言葉がけになるよう気をつけている。	○	もっと一人ひとりの昔馴染んだ手仕事や趣味を把握して自分でやりたいことをやっていただき一日を大切に過ごせる様にしたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	スタッフが伸びた髪をカットすることがあり、ご本人の希望を尋ねることまではやっていない。	○	「美容院でカットしますか。こちらへ来てもらってやりますか。」というところからご本人の意思を尊重したい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	そうなるよう常に気持ちはもちつつ努力している。とてもいい雰囲気の中に食事となることもある。	○	年に数回利用者と職員で餃子作りをしたりして、一人ひとり出来ることをやっていただき楽しい食事作りをしている。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	「飲み物はこれこれ用意出来ますが、何にされますか。」と尋ねてお出しすることもある。	○	お一人お一人の嗜好に合わせて、好みのものをお尋ねする習慣をつけたい。
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間をみて、あるいはご本人の行動から推察して声かけトイレ誘導をしている。	○	自尊心を傷つけないよう声かけに気をつけ、リハビリパンツ取替え等をし清潔を保てるようにする。
57	23	入浴を楽しむことのできる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後、屋食後が入浴タイムと決めているが、ご本人の要望があれば最優先するようにしている。	○	入浴時間を決めないで、たとえば夕食後の入浴のように普通の家庭のように入浴していただく。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人が“眠りたい”と訴えてこられることはないが、状況に応じて休んでいただけるよう声かけをしている。起きていただく際も時間をみて行っている。	○	家族とも相談して、一人ひとり自分の部屋をもっと自分が気持ちよく休息できるように工夫してもらいたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり、片付けたり、たたんだりを自然に協力して下さる。 気晴らしは常に何がいいか心に留めている。	○	スタッフ一人一人が脱マンネリ化を図り、色々な取り組みを企画し実行してもらいたい。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一律にまだ現金所持OKの取り組みはしていない。	○	財布の管理が出来そうな利用者さんには、ご家族の協力を得て実行していきたい。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出強化は常の目標としている。	○	“一人一人の希望”というところまで至っていないので、今後とも利用者さんの声を聞くようにしたい。
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出範囲を狭めないよう気をつけている。 遠出(昼食現地)の機会は少ない。	○	前もって計画をし、バス旅行なども企画していきたい。 お宅訪問もさせていただきたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者さんはされている。 ご家族に事前にお話したり了解を得ている。	○	“電話してみますか”とこちらから声かけする位に、自然の欲求と受け止め支援していきたい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会は出来るようにしている。 声かけ、雰囲気作りはしている。	○	今まで以上に、知人や友人にも声かけをして、面会に来ていただくようにしていきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底されている。 折に触れ、新聞記事等で理解を深めている。	○	これからも徹底していく。 ミーティング等でも新聞記事等を取り上げより一層理解を深めていく。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアが当然と考え実行している。	○	一階出入口も鍵を掛けないようにしたいが、不審者等が入ると困るので鍵をかけて利用者の安全を図りたい。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	細かく目配りをする必要のある人はわかっているの で配慮している。	○	スタッフ間でその場を離れる時など声かけあって常に誰かの目が行き届くようにしておく。
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に何かを隠しておくことはしていない。 気をつけて取り組んでいる。	○	状況が変われば何らかの対処はしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	足腰の弱い方が歩行し始めた時、さりげなく近づき見守り、注意を促したり、散歩などでも常に利用者さんに目を向け注意している。姿が見えなくなったらすぐ気が付くように気をつけている。	○	外出時の介助など、室内では考えられない転倒が起こりうるので充分注意していきたい。
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	随時、各自心構えとして学んでいる。	○	初期対応訓練を定期的に行いたい。 事業所で開催している消防署での救急救命の講習を全スタッフ受けるようにしたい。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から消火器の位置や避難経路を把握している。 年2回の防災訓練で非常口からの脱出方法などはスタッフが身につけている。	○	災害時のような介助が必要か利用者を状況を把握しシミュレーションをして災害時に備え、避難訓練などで身につける。地域の近隣の方々に、万が一の時に協力していただけるよう関係作りをしていきたい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会の折に触れ、話すことはある。	○	ご本人に不安や苦悩を与えないように家族などに説明をしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノートに詳細に記入、連絡を速やかに行い対応できている。	○	高齢者は状態が急変するので、早め早めの対応を心がける。
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などを必ずいただき、薬の把握をスタッフ全員している。 服薬準備した者と、実際に服薬に携わった者の名前を記入して管理を徹底している。	○	お薬手帳を必ず作っていただき、飲み合わせの副作用などないようにしたい。
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況はわかるように表にしている。 便秘対策として食べ物、運動などに配慮している。	○	運動不足にはいつも注意を払う。 水溶性食物繊維と不溶性食物繊維を適度に取れるような献立づくりを心がける。
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアはゆるやかに声がけ、支援が必要な方には忘れず行っている。 夜就寝前に入れ歯の方の入れ歯を預かり、次の日の朝まで消毒しておく。	○	半年に一回、定期的に歯科医師による検診をする。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	柔らかめにするとか食べ物の好き嫌いなどに気をつけ美味しく召し上がっていただけるよう支援している。 一人ひとりの摂取量を把握し提供している。	○	栄養士と相談しながら献立作りをしていきたい。
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の清掃、テーブル、手すり、椅子やソファなどは消毒している。 トイレ使用後の便座、便器のまわりの消毒は徹底して行い、嘔吐物ありの時細心の注意を払っている。	○	外出から帰った時の手洗いうがいを習慣づける。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限に気をつけ、新鮮な食材購入に努めている。 食器の煮沸消毒をしている。 食材によって使うまな板を分けている。	○	食中毒の種類、予防方法などを把握する。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	大きな看板を掲げ、わかりやすくしている。敷地が広く車の出入り駐車も楽である。バス停の前にあり、花壇を設けているので季節の花々を植えたり、清掃をして明るくきれいを目標に努めている。	○	バス停前という立地条件を活かし、近隣の方々にアピールしていきたい。
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、鉢を置いている。その月に見合った壁絵を利用者さんと一緒に創作して飾っている。	○	玄関やトイレにも観葉植物や花等を飾りたい。空間も吊るすもの等も工夫したい。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや丸テーブル(3個)を置いて自由にどこでも座れるようにしている。ホールから隠れることが出来るような造りでティーラウンジや和室がある。	○	食事の際なども席を決めずに自由に好きな所に座っていただくことを大切にしていきたい。
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族のお好きなようにセッティングしていただけるようにしている。契約時になるべくご本人の使い慣れた物を使用してください様をお願いしている。	○	本人の過ごしていた部屋をそのまま持ってきていただけるような、部屋作りをお奨めしていきたい。
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い日などは窓を開けて換気をしている。エアコンや加湿器などで湿度、温度調整を随時行っている。	○	エアコンやカーテンの掃除、洗濯を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いホール、長い廊下にも手すりがあり、歩くだけでも運動出来る造りを活かし、機能維持を図っている。	○	利用されていない部分もあり、もっと利用していきたい。
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	風呂場に“ゆ”と書いた暖簾を下げている。夜トイレのドアを開けておき、照明をつけている。	○	混乱してしまったり、失敗をしてしまう事態が発生した場合、状況を詳しく把握し、ミーティングを行いどうしたら防げるのが利用者に向けた環境づくりをしていきたい。
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで椅子を並べて日向ぼっこやゲーム等を行っている。建物の外周りも敷地が広く、散策したり草花の観賞など自然を楽しんでいただいている。	○	菜園(畑)があり、収穫時だけではなく日頃の手入れにも参加していただく。

(様式1)

## 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98		職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない